

創立記念祭祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教 分教会長

慎んで申し上げます

親神様は人間の陽気ぐらしを楽しみにこの世をお創めになり その後も限りない親心をもてお育て下さいますお蔭により ようやく今日まで成人させて頂きましたご高恩の程 片時も忘れる事なく朝夕深く厚く御礼申し上げます 殊に旬刻限の到来と共に元のぢばに於て 教祖をやしろとしておつけ下さいました親神様直々のこのお道は 年と共に国の内外に伸び展けて参りましたが その中にも昭和十七年 月 日△△△△△を主管者として横浜市中区〇〇町一丁目一二三番地なる元の中学校前に〇〇分教会という名称の理をお許し頂きました 時恰も大東亜戦争下の厳しい世界事情のため 県庁の許可が得られず認可は成らず 為に親神様・教祖の御分霊は拝戴できず 遂に初代会長は未完成のまま、苦難の生涯を終えました

ところが当時の人々 み教え通り節から芽を出すべく勇みに勇んで現在地を求め △△△△△を芯として改めて教会の出願に及び 昭和 年 月 日宿願のお目標様をご下附頂く事が出来ました 嬉しきの涙に暮れたま、このお目標様を胸に抱き 大教会 〇〇 〇〇の各上級を経て舞鶴なる〇〇に参拝させて頂きました 横浜は大空襲にあい 教会施設は灰燼に帰してしまいました 又一かけから神殿復興ふしんにかかり 待ちに待った鎮座祭並びに設立奉告祭はようやく昭和二十二年 月十一日 十二日の両日に亘って感激に打ち震えながらつとめさせて頂く事が出来たのであります

爾来いくたの風雪をしのぎ山坂を超え一手一つとなって親神様の思召を伝え教祖のひながたを辿って行くまにまに 部内教会布教所並びに講社の数も次々に増え ようやく現在の如き成人の姿をお与え頂きました こゝに人々事謀り昭和十七年の御本部のお許しを起点とし 今日吉き日当教会創立〇〇周年記念祭を執り行う事に相成りました

過ぎし〇〇年間のあの日この日を思い起こし感謝しつつ、 只今から部内一同心を一つに揃えて てをどりを陽気に勇んでつとめさせて頂きます

今日の栄えある記念祭今後の新たな飛石とし跳躍台として新たな目標 すなわち“大教会神殿ふしんへの伏せ込み”“おつとめの充実”“各よふぼく家庭より別席者を”を三代指針として やがて三年半余り後に迎えます教祖年祭に向かって ひのきしんの上につくしの上に 或いは白いがけお救けの上に心の限り力の限りつとめ切らせて頂きたいと固く心を定めて居りますが 私達一同が東に西に南に北に馳せ巡りますたすけ一条の先々にいよいよ不思議なお働き深い親心を賜り 又人々の心は次々に更まり思召し下さる信神和楽親子団欒の陽気ぐらしの世の状が一日も早く訪れますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます